

平成26年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

《 開催地市長歓迎挨拶 》



唐津市長の坂井でございます。本日は開催地を代表いたしまして、一言心からの歓迎のご挨拶を申し上げたいと思います。このたび、平成26年度日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、重ねて遠路はるばる唐津へお越しいただきました皆様方に、重ねて心から歓迎を申し上げたいと存じます。

日本海にぎわい・交流海道ネットワークにおかれましては、港湾を核とした日本海沿岸地域の交流の拡大に多大な貢献をされてこられましたことに、心より敬意を表する次第でございます。

さて、日本海側の港は、太平洋側で発生の確率が高まっている大地震の際の代替としての役割が期待されているところではございますが、日本海側でも最近、既にご存じの方々も多いと思いますけれども、非常に津波の規模が大きくなるというシミュレーション結果が公表されているところでございます。この後、総会の中でまた事務局のほうからご報告等があるかと思えます。この総会において皆様方との連携を改めて再確認し、今後この点も含めた日本海側の港の役割についても議論が必要になるかと思っているところでございます。

さて、ここ唐津市は佐賀県北西部に位置をいたしまして、古来、東の津——アジア大陸との津は港という意味でございます、東の津とも呼ばれ、卑弥呼の時代以来、大陸との海上交通の要所として栄え、魏志倭人伝に記される末盧国に位置をいたしておりまして、遣唐使の経由地、あるいは豊臣秀吉の朝鮮出兵など歴史的にも富んだ地域でございます。

また、唐津港は江戸末期に近代港としての第一歩が始まり、背後で産出される石炭の積

み出し港として活況を呈してまいりましたが、戦後は物流埠頭あるいは水産基地などの整備、また唐津港の特性を生かした海洋性レクリエーション機能を拡充するためのヨットハーバー整備等により、現在の唐津港の骨格が固まってまいりました。現在は物流機能及び観光機能をあわせ持つ耐震岸壁の整備に着手していただいております。平成28年春の完成予定となっているところでございます。また、来訪者でにぎわう空間づくりのために、松原を再生させる緑地整備やまちづくりファンド事業を活用した人道橋の整備など、市民協働での取り組みも進んでおりまして、「みなとオアシスからつ」として親しまれています。

耐震岸壁の整備が進む東港は、唐津城や日本三大松原の虹の松原などを眺めながら入港できる、非常にロケーションに恵まれた港でございまして、観光唐津の海の玄関口ともなっているところでございます。現在その完成に向け、貨物船とともにクルーズ船の寄港誘致活動を佐賀県と一緒に進めているところでございます。

さて、今日この日は大変記念すべき日でございまして、実は過去100年前、大西洋と太平洋を結ぶパナマ運河が開通をいたしたのが1914年8月15日でございました。それを経て100年。ある記念誌等によりますと、ヨーロッパからパナマ運河を通してアジアへ向かう船舶で、日本に初寄港した港がここ唐津港でございまして、ちょうど明後日、それから100年目を迎えます。この日に総会が開催できるというのは我々唐津にとっても大変幸せの限りでございます。ボルトンキャッスル号という船でございまして、それを記念した式典等も、我々としては盛大に盛り上げたいと思っております。

ほかにも、唐津には日本三大茶器の一つ唐津焼や、おいしい水で作られた地酒、そしてご承知の方々も多いと思いますが、呼子のイカに代表される新鮮な食材など多くの名物・名産品を有し、さらには唐津くんちを代表として、各地域でお祭りがしっかりと根づいているなど、たくさんのお見どころがございます。お集まりの皆様方には2日間という短い期間ではございますが、ぜひぜひ唐津のまちを楽しんでいただければ幸いです。

結びになりますが、日本海にぎわい・交流海道ネットワークを通しまして、それぞれの地域がより繁栄していきまるとともに、ご臨席の皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げて、冒頭に当たりましての私からの歓迎のご挨拶とさせていただきます。どうぞ皆様方、今後ともよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。